平成 27 年 5 月 12 日

ところ会　6 月行事案内

平成 27 年度、第 6 回テーマ：

新選組のふるさと･甲州街道日野宿からアジサイの咲く高幡不動尊へ

（新選組のふる里歴史館、日野宿本陣、高幡不動）

6 月の行事は新選組の故郷を回ってみたいと思い、下記のコースを選んでみました。

記

■日　　時：平成 27 年 6 月 19 日（金）9 時 15 分集合

■集合場所：武蔵野線新秋津駅

■見学場所及び時間

新秋津駅(9:21 むさしの号)⇒日野駅(9:42)⇒坂下地蔵堂⇒宝泉寺⇒八坂神社⇒問屋場・高札場跡、日野宿交流館⇒**日野宿本陣**⇒高幡不動尊道標⇒**新選組のふるさと歴史館**⇒神明 1 バス停⇒バスにて高幡不動前⇒昼食⇒**高幡不動尊**

帰路：高幡不動駅⇒玉川上水⇒小川⇒東村山⇒所沢駅(解散)

■拝観料：800 円を当日徴収します

・日野宿本陣と日野宿交流館：300 円

・高幡不動奥殿：300 円、高幡不動大日堂：200 円

■昼食：天狗　高幡不動店

■散策先：簡単ガイド

＜坂下地蔵堂＞

坂下地蔵堂は日野宿の西端にあたり、西の地蔵とも呼ばれています。この前の道は**旧甲州街道**で、旅人などの休憩の場、時には宿泊の場となっていた創建時の堂宇は明治の末に焼失してしまいました。現在のお堂は昭和７年に再建されたものです。

堂の前方には、２体の大きな石地蔵と、６体の小地蔵が並んでおり、元文２（1737）年建立です。堂の中には本尊延命地蔵尊（**日野市指定文化財**）

があります。正徳３（1713）年に造られたものです。青銅の座像で、その姿は正面の格子窓から垣間見ることができます。

＜宝泉寺＞

新選組六番隊長・副長助勤井上源三郎の墓所がある宝泉寺は、臨済宗建長寺派の禅寺です。旧甲州街道に面した山門はひのき造りの四脚門、嘉永6年（1853年）に建てられたものです。創立は元徳年間（1330年頃）で、当初は現新町、中央高速が通るあたりにありましたが、火災にあい、その後、現在の地に再建されたといわれています。

本尊は釈迦如来、脇侍に文珠菩薩、普賢菩薩があります。また、感じる重さによって吉凶を占ったといわれる「**持ち上げ観音**」の名で知られる約 36cm の馬頭観音の石像が本堂と客殿の間の廊下にあります。
駐車場に面して**井上源三郎之顕彰碑**が建てられています。

持ち上げ観音

【井上源三郎墓所】

宝泉寺墓地の奥まった所に井上家の墓所があり井上源三郎（戒名：誠願元忠居士）の墓碑が建てられています。（誠の青い旗が目印）

＜八坂神社（通称：天王さま）＞

伝説によると、多摩川の淵から拾い上げられた**牛頭天王**像を勧請し祠を建てたのが八坂神社の始まりといわれています。社伝では「応永5年（1398）、普門寺が開基され、牛頭天王社を管理するようになった」とあります。また、元亀元年（1570）、普門寺の移転と現在の甲州街道の道筋が定められたことから現在地に遷座しました。

明治2年に神仏分離によって別当であった普門寺から切り離され「天王さま」と呼ばれていた**牛頭天王社は八坂神社に改名**されました。八坂神社への改称を契機として、10年の歳月をかけ、千貫神輿と呼ばれる神輿や石造りの蔵風の神輿庫、お仮屋などが新建されました。この費用約900円のうち1/3以上を名主であった佐藤家が負担しています。

ここの**手水舎**はハイテクで、近づくと龍の口から水が出ます。

【本殿（日野市重要文化財）】：寛政12年（1800）に建造されたもので、精巧な彫刻が組み込まれた江戸後期を代表する神社建築です。

牛頭天王はインドの釈迦の生誕地に因む**祇園精舎の守護神**、神道では**素盞嗚尊**（スサノオノミコト）です。八坂神社に改名されるまでは「祇園社」の篇額が掲げられていました。ちなみに佐藤彦五郎が万延元年（1860）に奉納した「祇園社」の篇額も残されています。

【八坂社の篇額】：鳥居と本殿に掲げられている篇額は、明治 7 年（1874）、佐藤彦五郎の願いによって**有栖川宮熾仁**（たかひと）**親王**が特に書かれたものを飜刻したものです。

【天然理心流の剣術額】：近藤勇や井上源三郎らが奉納したもの。安政 5 年（1858）に奉献され、日野宿の剣士たち 23 名と近藤（嶋崎）勇、客分として沖田（惣次郎）総司の名が連ねてあります。

天然理心流の創始は寛政元年（1789）頃と推定されており、創始者の近藤内蔵之助長裕は静岡県の人でしたが、二代目三助は現八王子、三代目周助は町田、四代目勇が石原（現調布）と多摩地域と縁が深く、名主や豪農、八王子千人同心を中心に農民の間でも習われていました。

＜大昌寺＞

大昌寺は浄土宗知恩院末の寺で、江戸開府の前年、慶長 7 年（1602）の開基です。江戸時代、大昌寺の梵鐘（**時の鐘**）は日野宿に時を告げ、親しまれていました。日野宿の名主を務めていた、**新選組の育ての親である佐藤彦五郎**（俊正）をはじめ、後の町長、市長など日野にゆかりある人々が眠っています。

大昌寺墓地の南西奥に佐藤家の墓所があります。隣り合って日野宿名主を勤めていた上・下両佐藤家の墓所はここでも隣同士、屋敷割り同様、東に下佐藤家、西に上佐藤家と並び方も同じです。

【下佐藤家　墓所】

新選組を支えた**佐藤彦五郎**、そして**土方歳三の姉**ノブが眠ります。

【上佐藤家　墓所】

上佐藤家の先祖、佐藤隼人正信は、斎藤道三に仕えていた武士でした。その後東国を目指し、日野の隼人といわれていました。

日野の隼人は、大昌寺の傍を流れている「**日野用水**」の開削や元亀元年（1570）北条氏照により造られた甲州街道の前身ともいわれる街道の建設にも協力し、村人に推されて名主となり、後に実収三千石といわれた日野本郷の基礎を作りました。

徳川時代になり、日野が宿場に指定された慶長 10（1605）年から明治初期まで佐藤家は下佐藤家とともに**問屋兼帯名主**※の役を勤めています。佐藤家は、維新後は町長などを輩出しています。（※兼帯：兼任と同じ）

＜問屋場（といやば）・高札跡＞

日野宿本陣のはす向かいにある日野市立日野図書館の前に問屋場・高札

跡の碑が立っています。このあたりが日野宿の中心地でした。ちなみに、この建物は日野郵便局本局として建てられたものです。

問屋場は、江戸時代の街道の宿場で人馬の継立、助郷賦課などの業務を行うところで、駅亭、伝馬所、馬締（まじめ）ともいいました。業務の主宰者は**問屋**と称され、その助役の年寄、さらに人馬の出入りや賃銭などを記入する帳付、人馬に荷物を振り分ける馬指などの者がいた。

＜日野宿交流館＞

日野宿本陣のはす向かいに日野宿交流館があります。ここは、八王子信用金庫日野支店だった建物です。この建物は間口に対して奥行きが長くなっています。江戸時代は間口に対して税金がかかったためです。

２階が展示室になっていますが元信用金庫だけあって、当時の金庫が残されています。

＜日野宿本陣＞　入館料：ふるさと歴史館と合わせて 300 円

日野宿本陣は**都内で唯一残る江戸時代に建てられた本陣建物**です。今の建物は嘉永 2 年（1849）の大火で焼失した後に建設されました。幕末に日野宿の問屋と日野本郷名主を務めていた**佐藤彦五郎**が**本陣兼自宅**として 10 年を掛けて建設し、元治元年（1864）12 月から使用された建物です。

大火をきっかけに自衛の必要を痛感した佐藤彦五郎は八王子千人同心の井上松五郎から**天然理心流**を紹介され、近藤周助に入門し、**自宅に道場**も開きました。

この道場には、やがて**近藤勇**や**沖田総司**、**山南敬助**らが訪れるようになり、日野出身の**土方歳三・井上源三郎**らを交えた新選組と日野の人々との物語の幕が開けられたのです。まだ、本陣が完成する前のことです。

本陣が完成する少し前、徳川 14 代将軍家茂が上洛。その警護のために新選組の前身となる**浪士組**が京都へ向っています。この浪士組に近藤勇や土方歳三、井上源三郎、沖田総司らが参加しています。

＜高幡山不動尊参道石柱＞

川崎街道の入口に「高幡山不動尊参道」と書かれた明治 17 年建立の石柱が立っています。元々、甲州街道から大昌寺に向う道の入口に立っていたものでしたが、昭和 7 年、現川崎街道ができたおり、ここに移されました。

＜新選組のふるさと歴史館＞　入館料：日野宿本陣と合わせて 300 円

日野市立「新選組のふるさと歴史館」では平成 22 年度から、日野に残されている新選組資料を集めた常設展が行われ、新選組の歴史を中心に、さまざまな企画展も催されています。

ここに来るには**約百段の階段**の道を登らなければなりません。ゆっくりでも良いので頑張って上りましょう。

＜高幡山金剛寺（高幡不動尊）＞

真言宗智山派別格本山。京都智積院を総本山とする関東屈指の古刹であり、高幡不動として広く知られています。**関東三大不動**の一つといわれており、境内地四千数百坪と、接続する山林を合わせて三万坪からなる敷地に織り成される四季を彩る自然と景観風情も特徴です。

当地を東関鎮護の霊場とするという清和天皇(850～881)の勅願によって、山中に不動堂を建立し、不動明王を安置したのに始まりました。古文書によれば大宝年間（701）以前に創設された、あるいは奈良時代に行基菩薩が開基したとも伝えられています。

足利時代には「汗かき不動」と呼ばれて鎌倉公方をはじめとする戦国武将の尊崇を得、江戸時代には庶民には火防（ひぶせ）の不動尊として広くの信仰を集めていました。

不動堂の本尊、**重文「丈六不動三尊」**は古来日本一と伝えられる総重量 1,100kg を超えるもので、平成 14 年春千年ぶりの修復作業が完了しました。

安永 8 年（1779）火災に遇い、門末三十六ケ寺を従え関東地方屈指の大寺院であった金剛寺も大日堂をはじめ大師堂、山門、客殿、僧坊等を一挙に焼失してしまいました。

復興は徐々に行われて来ましたが、特に戦後、仁王門、不動堂の改修から殊に昭和 50 年代から五重塔・大日堂・鐘楼等の工事が続き、漸く往時を凌ぐ程の寺観を呈するようになった。

この金剛寺は土方歳三の菩提寺であり、**土方家は檀家筆頭格**の家柄です。

【不動堂】:国の重要文化財

現在の不動堂は台風によって倒壊した物を康永元年（1342）に現在の場所に移し建てたもので、東京都随一の古文化財建造物です。

この不動堂には**「丈六不動三尊」**※が安置されています。ただし、この丈六不動三尊は平成 12～14 年に行われた 1000 年ぶりの修復作業の際に不動明王像が不在となるため、身代わりの本尊として創られた平安後期の様式を忠実に造立された極彩色の新丈六不動三尊（北宗俊作）です。

※丈六仏：仏像の立像の高さが一丈六尺ある像をいう。一丈は 10 尺なので丈六は 16 尺。坐像では半分の 8 尺となる。仏の背丈は常人の倍あるとし、昔の一尺は短かったので、常人を 8 尺と考えたのが根拠となっている。高幡不動の不動像は 285.8mm で 8 尺よりは大きい。

不動三尊は向かって右が矜羯羅（こんがら）童子、左が制多迦（せいたか）童子です。

【仁王門】:国の重要文化財

昭和 33 年に改修され重層銅板葺造り、寄木造りの立派な金剛力士の一対が左右に安置されています。残念ながら現在改修中のため見られません。

【奥　殿】　拝観料：300 円

不動堂の裏手にある朱色の建物が奥殿です。ここは高幡不動尊に伝承されている数多くの文化財を保管、展示する堂で、**重文「丈六不動三尊」**が安置されており参拝することができます。

新選組関係の資料として、土方歳三書簡、土方歳三隊々旗「東照大権現」の幟、中島登覚書写し、天然理心流佐藤道場使用の木剣など多数が収蔵されており、展示室で順次展示されています。

【大日堂】　拝観料：200 円

高幡不動尊境内の奥まった所に大日堂があります。大日堂は高幡山の総本山で、**土方歳三の位牌**もここに納められており、堂内には平安時代に造られた大日如来像が安置されています。

公開されている「**鳴り龍天井**」は有名。江戸時代の優れた彫刻や、後藤純男画伯が描いた襖絵「**桂林山水朝陽夕粧**」も拝観できます。また、入り口の前には**水琴窟**があり、涼やかな音を響かせています。

【殉節両雄の碑】

明治政府は戊辰戦争に関係した東軍の戦死者の墓碑の建立や供養を禁止していました。この禁が解けた明治九年に、高幡山前住賢雅和上や日野宿の佐藤彦五郎を中心に「**近藤・土方の忠節を顕彰する碑**」を造りました。しかし碑が完成しても建立の許可が得られず、実際に建てられたのは明治 21 年です。

【土方歳三銅像】

この像は日野市ロータリークラブが歳三の姿を現代に蘇らせたものです。